

メールの効用

「携帯は欠かせない。忘れたら学校から家まで取りに帰る」(20代女性)

家にいながら、電車に乗りながら、何かを待ちながら…ひとりできて、ひとりではない、誰かとつながっている。携帯電話やメールはそんな安心感をもたせてくれるものなのかもしれません。特に子育て中の20代から30代の女性たちにメールへの関心の高さがうかがえました。

「子どもができてから、友人と会う機会が極端に減った。誰かとじっくり話すこともなくなった。電話ができなくなったので、メールがなかったら、友人達とのコミュニケーションは皆無になっていたと思う」(30代女性)

「子どもとふたりきりでいる時間ばかりで大人との会話がないとやはりいきづまる。人とのコミュニケーションの大切さを感じる」(30代女性)

子どもはともかわいだけれど、子育ての中で閉塞感をもつ人も少なくないようです。わずかな隙間のような時間でも大人と言葉を交わしたい時、メールは好都合なの

でしょう。

また、メールは、若い世代に限ったコミュニケーション手段ではありません。毎日のメール交換が高齢者の安否確認や孤立化防止に役立っているケースがあります。

「毎朝メールが届くのが楽しみ。負担のない身近な出来事を簡略な文で送信しており、頭の体操です。妻に推されて入ったパソコン教室がきっかけ」(80代男性)

「送信する側ですが、毎日張りができた。明るい文面を心がけ、元氣が出たという返信ははげみです。デジタル写真を送ったり、工夫が楽しみ」(70代女性)

お二人は リボンネットワーク(※2)というシステムを利用する会員になって、メール交換が日課です。

その他、

「雨の日など近所でもわざわざ同わなくても、どうしてる？と気軽に連絡できて便利」(70代女性)

「疎遠だった昔の友人と、退職後はメールで旧交をあたためている。海外にもメル友がいる」(60代男性)

など、メールは使い方や工夫次第で、高齢者のコミュニケーション手段の一つとして、おおいに期待でき

るものようです。

メールの危険性

一方、メールの危うさも多く指摘されています。

「仕事などの伝達事項や挨拶文、連絡網には適しているが、お互いの深い信頼関係が築けないうちにメールでの話し合いや相談というのは難しいと思う。相手の表情や声のトーンがわからない中、一方的に自分の主張を述べるというのは思わぬ誤解を招く」(30代女性)

「コミュニケーションを楽しむには、双方のキャッチボールが大切。一方の思い入れが強すぎたりすると、バランスがくずれてしまうので難しいなあと感じたりします」(30代女性)

「顔を見て話さないと気持ちを伝えにくい。メールなどのツールは便利だが、受ける側の価値観の違いなどから、すべてを伝えきれない場合がある」(30代女性)

相互理解の具合を確かめながら話を進めることが難しいというの、はメールの弱点と言えるでしょう。微妙なニュアンスのことについては真意が伝わらない懸念があるようです。表情や声を伴わないことで、

逆に言えば、本心を偽ることも容易に可能になってしまいます。

また、

「あまりメールばかりに頼ると、人の気持ちを汲み取る能力が低下するようにも思えます」(30代女性)

「最近の若者が、メールばかりのコミュニケーションに頼っているの、直接対面してのコミュニケーション能力が低下していることを危惧しています」(30代男性)

といった意見も複数寄せられました。メールによっていつでも交流でき、孤独を忘れられるということとは同時に、実際そばにいない人との会話がおよそかになったり、頻繁にメールのやりとりをしないでと落ち着かないという状態になっていく危険性もあります。

「メールは話す機会を減らしてしまっていると思う」(20代女性)

「会社では近くにいてもメールする社員が増えている。『会って話すこと』がすたれていくことを危惧している」(50代男性)

「マナーやルールを互いに尊重し合い、できる限り会って顔を見たり、声を聞くことを大切にしたい。隣同士で座ってメールをして会話している若い子がいて不安になった」(30代